



日本カトリック海外宣教者を支援する会

巻頭言

「支援する会」に出会えて

東京教区徳田教会信徒 中 村 文 子

151号の巻頭言を、と言われた時には文字通り頭が真っ白になりました。なぜなら私は海外宣教の活動については、この会にかかわらせて頂くまで、全くと言ってよいほど何も知らなかったからです。確かに以前、よく存じ上げている神父様がフィリピンにいらしたことはあります。その時私は「神父様は遠い所に行ってしまう」と漠然とした淋しさを感じ、戻っていらした時には「ああ、良かった、無事に帰っていらした」と喜びました。でもそれだけで、その神父様のフィリピンでの活動を深く知ろうとはしませんでした。またある若いシスターが南米に行かれると聞いた時にも、「まあ、こんなに若い方が大変でしょうに」と心配しましたが、それで終わってしまいました。今思えば、本当に恥ずかしい限りです。

「支援する会」とのかかわりは、事務局のお手伝いをさせて頂いたことが始まりでした。仕事を辞めた時、これからも何か社会とつながっていたい、そしてそれならば、今まで仕事や生活にかまけてついついなおざりにしてきた「教会」にかかわることをしたいと思ったのです。何も知らない私は、ここ2～3年の「きずな」を読み出しました。そして宣教者の方々の色々な活動を知るにつれ、まさに目が開かれていく思いをいたしました。内戦や自然災害のさなか、

♥♥♥ もくじ ♥♥♥

巻頭言	1
第76回運営委員会議事録	3
宣教者からのお便り	4
ザ・メッセージ ECHO	8
こんにちは! お久しぶりです	10
新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り	11
新入会員・事務局より	12



命の危険にさらされながらも現地に留まり続ける方、ご高齢にもかかわらず、意欲と献身の気持ちを持ち失わずに前向きに仕事に取り組まれる方、ご自分の技能を活かして人々との交流を深められる方、おおっぴらに「宣教」することもできないような所でも、長い年月をかけて現地の人々の信頼を勝ち取っていかれる方、日本に一時帰国なさっても、ご自分の「我が家」は宣教地であると、戻ることを切望し、喜ばれる方。そしてまた、宣教者の活動は決して「美談」の一言で表されるようなことではなく、文化も生活習慣も異なる地で様々な壁につき当たり、時にはいらいらさせられたり、失望させられたりもしながらも、それでも神様への信頼を失わずに小さなことから地道に積み重ねていく、そういう活動なのだと私は知りました。そのようなご苦勞をされながらも、仕事に対する使命感と喜び、そして感謝の思いを語られるシスター方の姿には、深い感銘を受けずにはられません。

昨年 11 月に日本を訪問された教皇フランシスコは東京ドームのミサで、私たちキリスト者は「傷ついた人を癒し、和解と赦しの道を常に示す野戦病院となること」を求められている、と言われました。宣教者の方々の生き方はまさにその通りだ、と私は思います。言わば最前線の野戦病院で目の前にいる一人一人の人に手を差し伸べているのだと。そして私自身を振り返ってみれば、私の問題の核心は「知らなかった」ということではなく、「知ろうとしなかった」ということにあるのだ、と気付かされました。教皇のメッセージは私たち一人一人に他者に向かって歩みよれ、と求めているのだと思います。「海外宣教者を支援する会」にかかわらせて頂くことによって、私はその歩みを一歩進めることができたように思います。本当に小さな一歩ではありますが。私が知ろうとしてこなかった世界を教えてくださいと宣教者の方々、そしてこのような私を受け入れてくださった会の方々に出会えたことを神様に感謝いたします。

冒頭で触れた神父様とはフランシスコ会の中谷功神父のことですが、その中谷神父に先日久しぶりにお会いすることができました。私が運営委員になったと聞いて神父様はちょっとびっくりされたようでした。こんなに何も知らない私でも務まるのでしょうか、と申しますと、神父様は「そういう人が加わることも大切なんだよ」と仰ってくださいました。その言葉を杖に、これから多少でもお役にたてますように努めてまいりたいと思います。

最後に、私がこの原稿を書いております今、世界は新型コロナウイルスの蔓延という災禍に見舞われています。こうした中、各地の宣教者の方々がどのような状況に置かれているのか、本当に案じられます。どうか神様が皆様の健康と安全を御守りくださいますよう、心よりお祈りいたします。151 号が発行される 6 月にはこの病の大流行が少しでも終息に向かっていることを願い、神様を信頼し、希望をもって進んでいきたいと思います。海外宣教という大きな大きな野戦病院の、後方支援部隊の一員として。

第 76 回運営委員会議事録

日 時：2020 年 3 月 14 日（土） 15:00~17:00

場 所：フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2 階会議室

議 事

*事務局より、新運営委員の Sr. 延江由美子を紹介。

アメリカにあるメデイカル・ミッション・シスターズに所属、現在インド北東部にて活動中。

I. 「きずな」150 号について

- ・編集後記で新型コロナウイルスに隠れた「サバクトビバッタ」の被害に触れ、被害が心配。
- ・カラー印刷の評判が良かった。時々実行してはどうかと読者からのご意見もあった為検討。
- ・瀬田封入分 2,956 通は国内きずな発送業者に封入も依頼。

通常発送費用+封入費用（会報、振込取扱票の 2 点で ¥18,000）

- ・瀬田ボランティアより「始めて郵便できずなを受け取る体験をして新鮮で嬉しかった。」との感想があった。（ボランティアはいつもは持ち帰りできずなを受け取っているため）

II. 「きずな」151 号について

- ・巻頭言：中村文子（現運営委員）に願う。

III. 援助申請審議

- ① シエラレオネの Sr. 白幡和子（御聖体の宣教クララ修道会）より→\$ 600 全額支援決定
車や発電機を動かすためのディーゼルオイル代（半年以上電気なしの生活のため）
- ② カンボジアの Sr. 橋本進子（ショファイユの幼きイエズス修道会）より→\$ 3,800 全額支援決定
2019 年 3 月身体に障害を持つ子どものデイサービスセンターがありエイズの家族とお年寄りが住む「平和の村」と「トロンペアスクーン村」の 2 つに読書室ができたため 2 村追加で 7 村。読書推進のために 7 つの村の読書室管理費として 1 年分、村の読書室本代と教材費、図書館管理費と常設書籍代の合計。

現地に少し具体的内容をメールで確認する。

☆この後、援助についての意見交換を行った

- *援助基準を細かく検討しガイドラインを作成する。
 - *管理費についてはこれからも細かく検討する。
 - *国によって様々な条件が違うので援助については宣教師とよくコミュニケーションをとる。
- などなど

IV. その他

- ・新運営委員：Sr. 延江由美子の他にもこれから探す予定。
- ・10/3 お話し会の会場：カトリック成城教会（聖堂に 250 名位収容可能）に決定。

- ・瀬田ボランティア封入作業（国内）は9月より再開、6月は業者で行う。
- ・海外便他発送（3/6 ボラ2名で作業）…海外125件 大口（発送ボランティア分含む）45件。
- ・2019年度：新入会員31名（すべて個人）入会件数413件（個人・修道会・司教区・教育機関他）。
- ・1年に1度「きずな」『事務局より』欄に、「領収書発行は希望者のみに」を掲載する。
- ・4月からのホームページの更新作業：全さん（徳田教会）に決定。
- ・事務所のノートパソコンの調子が悪いため新規購入する。（現在OS：Windows10 hpのものを2014年 80,676で購入）。
- ・きずな編集担当が、諏訪委員から伊藤委員に交替。20年以上担当してくださった諏訪委員に感謝。

次回運営委員会日時 2020年6月20日 15時～



宣教者からのお便り



モンゴル

◆ウランバートル◆

毎週 32 km離れた教会へ

サレジャン・シスターズ 小 島 華 子

日本では毎日、新型コロナウイルスのニュースでメディアを騒がせ、人々も不安でいっぱいなのではないでしょうか？こちら、モンゴルは例年よりも酷いインフルエンザと新型コロナウイルスの影響を最低限に抑えるために1月から全学校が休校、そして政府から「大勢の集まりをしな

いように」というお達しがあった為、教会で日曜日のミサを行うことができません。以前は学校は2月いっぱいまでということでしたが今は次の政府の取り決めに報告されるまで休校ということになりました。私たち、修道院では幸いなことに毎日ミサがありますが、私にとって日曜日に教会でミサがない、してはいけない、と



共同体の姉妹達 モンゴルの旧正月（ツァガンサル）



ショボー地区にあるサレジオ会の教会に来る子供たち。この女の子たちに毎週土曜日オルガンを教えているのですが1月のドンボスコのお祝いにコンサートをしました。

私にとっても感無量のコンサートでした！



私とマリア・アウジリウム・センターに通う
小学校1年と2年生の女の子

いうのは人生初の出来事であるために大きな戸惑いを感じつつもミサに参加できない方々のために毎日のミサをお捧げしています。

前置きが長くなりましたが、昨年の帰国中に車のガソリン代をご援助をいただきました。本当にありがとうございました。私が土日に行っている教会は修道院から32キロ離れたところにあり、ガソリン代も何カ月おきに高くなる状況です。バスで通ったほうが経済的なのですが、3つのバスを乗り継がなくてはならず、3番目に乗るバスは1時間に2本しかきませんので、1本を逃したら30分以上待っていなければなりません。しかも冬はマイナス30度過ぎますのでやはり車なしではとても難しいです。車で行けば45分、バスで行ったら2時間はかかります。ですので時間のロスを考えてもやはり車のほうがありがたいのです。

1日64キロ、土日の2日間で128キロを走りますのでガソリン代の負担がとても大きかったのですが、今回の援助のお陰で随分と助かりました。共同体の姉妹からの感謝もこの場を借りてお伝えいたします。この教会で2年前に始めたオルガンのレッスンは今更り始め、5人の

女の子たちは1、2曲、私の援助なしに両手でミサの曲を弾けるようになりました。私にとっても大きな喜びです！これからも皆様のお祈りと思いに支えられて難しい状況の中でも宣教女としての使命に邁進していきたいと思っております。感謝のお祈りを添えて。

カンボジア

◆カンボート◆

感染拡大での外出禁止

シヨファイユの幼きイエズス修道会 橋 本 進 子

新型コロナウイルス感染問題で世界的に緊張に満ちた日々が続いています。この問題が発生した1月下旬でした。シェムリアップ州に同じ修道会の共同体があります。そこの一人の会員が病気検査と治療のため日本に帰国した約1ヶ月間、3月9日まで手伝いに行きました。日本からカンボジアに戻ったということでその会員は2週間外出禁止、そのシスターと2、3日一緒だったということでカンボートに戻った私も2週間自室に軟禁されました。幸い2人は無症状で感謝でした。外国にいと自国で生活していたころよりも日本を思い、心配になります。この数日日本でも感染者が増え続けていますが、原因不明のこの難病、いつ終息するのでしょうか。ここカンボジアでの感染者は100数名ですが、休校が続いています。目の前の聖週間を教会で祈り祝うことが出来ません。オリヴィエ司教からはコロナウイルスの終息、そしてを感染者一日も早い回復を祈るようにと終日メールが届きます。

マダガスカル

◆アンタナナリヴォ◆

霊的な糧として

マリアの宣教師フランシスコ修道会 平 間 理 子

教皇はマダガスカルにも昨年の9月にいらしてくださり3日間でしたが希望と平和をテーマにして信者、多くの未信者の区別なくまさに国を挙げての歓迎でした。お忙しい中到着してすぐに若者による歓迎会は徹夜で行われました。ミサは野外ミサで広大な土地でしたので赤土の埃の中で声しが聞こえず姿は全く見えませんでした。その後はイエズス会の学校の中庭で司祭修道者だけの招待でしたのですぐ近くで姿を見ながらコンフェランスを聞くことが出来ました。又、アルゼンチンの神学校での教え子のラザリストズ会の神父が家のない路上生活をしていた家族などを集め2山を買って今は6,000人位で学校や親の仕事として石切山で建築の材料を作り、又職業訓練なども行っています。教皇はそこで半日位、いろいろと見て回られました。マダガスカルからモーリシャス島に行かれ半日



修道院の姉妹たち

位でまたマダガスカルに戻り飛行機に乗り変えて直接ローマへお帰りになりました。

その後、教皇のコンフェランスの内容について教区

やイエズス会主催でシンポジウムが行われています。もう四旬節に入りましたが教皇のメッセージがあちこちで黙想や研修会で取り上げられています。カトリック生活にも連載で取り上げてあり、霊的な糧として読んでいます。日本はコロナウイルス大変のようですが、こちらはこれからかもしれません。隔離場所として国立病院が用意されています。世界中に広がり死者まで出したウイルス早く收拾することを祈っております。又大変遅くなりましたが今年もよい年でお恵みの多い年でありますようにお祈りしております。

シエラレオネ

◆ルンサ◆

音楽を教える毎日

御聖体の宣教クララ修道会 白 幡 和 子

今、シエラレオネは乾期の真っ最中で、一年で一番暑い時です。以前はあまり湿気を感じませんでしたが年を取ったせいですね。暑さも身に応えます。

最近 腸チフス、緑内障の悪化、軽い脳梗塞にみまわれましたが、幸い元気を取り戻して、毎日、玉川白百合幼稚園（1990年に玉川学園小学部と九段白百合学園小学部の生徒さんたちの援助で園舎ができたのでこの名前がつけられました。2015年には25周年の感謝のごミサを予定しておりましたが、エボラ出血熱のためにできませんでした。）で音楽を教えています。主にピアノ、木琴、ハンドベルですが、この子供たちにとっては珍しいのでとても興味を示し、喜んで学んでいます。特に7月の卒園式

で父兄たちに披露します。

ここにはまだ、コロナウイルスは入って来ていませんが、同じ西アフリカのナイジェリア、ガーナ、セネガル、リベリア、ギニーには既にあるので政府も警戒を呼び掛けています。

手をよく洗うことからです。自分が感染しないからよいのではなく、この感染で苦しんでいるすべての方たちと御家族のために、特にこの四旬節には 主の御苦しみに合わせて日々の小さな犠牲とお祈りを捧げています。これからもどうぞお祈りくださいますようお願い申しあげます。

オーストラリア ◆アデレード◆

カトリック書店の閉鎖

聖パウロ女子修道会 松 本 恵

アデレード修道院を閉鎖することになったので、その結果、市内にある3階建てビルの書店、57年間アデレードで宣教してきたカトリック書店“Pauline Books & Media”も、閉鎖せざるを得なくなりました。

修道会は、1915年にイタリアで創立され、1955年にオーストラリアに渡ってきました。

アデレードに最初に聖パウロ書店が開店したのは1962年で、幾度かの移転を経て、1987年にこの建物に移動してきたのでした。

会員の高齢化と召命の減少で、過去2年間は、共同体には80代と70代の2人のシスターだけが残り、雇用者の手を借りながら、2人だけで週6日働き続けてきましたが、修道者として、この生活をこれ以上続けていくのは無理と判断と

の決断でした。アデレード市民の心の糧を提供できなくなることをを思い、断腸の思いでした。

実際、『閉店セール』の張り紙を見た顧客のフィードバックを聞き、雇用者だけで小規模でも何とか続けることができないか、いろいろ可能性を検討しましたが、諸条件から、実現は不可能と判断しました。

アデレード教区の月刊新聞”The Southern Cross”の編集長が新聞（2019年9月号）に記



地元紙の掲載された閉鎖記事



教皇の祝福状



アデレードの司教と共に

事を載せるため、昨年の8月半ばにインタビューにいらっしや「カトリックの信仰や教養を深める機会や場が多く与えられている、シドニーやメルボルンのような大きな都市や教区と違って、この書店は、私たちの唯一のカトリック書籍提供の場でした。今このセールが何を意味するのかを知って、今までもっとしばしばここに来るべきだったと後悔している顧客も多いことと思います。今この宝を失いかけて、『物は、失って初めて、その本当の価値に気がつく』という言葉の思い出しています。」とおっしゃいました。

司教も、アデレード大司教区内でなされてきた聖パウロ女子修道会の宣教に大変感謝され、その喪失を深く悲しまれ、昨年の11月に私たちのために「感謝のミサ」を捧げてくださった上、今年3月、私たちがアデレードを発つ直前に、教区事務所で「送別のお茶会」を計画して、そこで、ヴァチカンから取り寄せてくださった「教皇の祝福状」を渡してくださいました。

軽はずみな楽観主義ではなく、現実を真面目に受け止めて、責任ある態度を取りながら、限られた環境の中でもいろいろ工夫して、信仰の

うちに気持ちを晴れやかに持って、この時期を過ごしましょう！

ドイツ

◆デュッセルドルフ◆

新型コロナウイルス対策

聖パウロ女子修道会 比 護 キクエ

ドイツの新型コロナウイルスの死者は少ないのですが、感染者は毎日続出しています。

昨日から、わたしの住む州では、コロナウイルス対策として決めた法律に違反した者には、罰金が科されることになりました。

3人以上連れだって町を歩く人には200ユーロ、病院訪問者には200ユーロ、パーティーを開いた人には250ユーロ、公園などでバーベキューをした人には200ユーロ、レストランを開いた店主には4,000ユーロ、バーを開いた店主には5,000ユーロの罰金です。

要注意の65歳以上の人は、家から一歩も出てはいけなないので、買い物にも行けず、修道院で姉妹たちから頼まれた洋服を縫っています。

元気なので、感謝しています。



*フィリピン バコロド

善きサマリア人修道会 景山ひろ

皆様からの心温まるお励ましをいただきながら、ご無沙汰のままでのご無礼をお許しくさいます。会員の皆様のお祈り、世界にひろがる宣教者からのお便りに励まされる“きずな”、美しいカードなどなど、本当にありがとうございます

います。80代最後の年も終わりに近づきましたが、ミッションを続けられる事に毎朝あらためて感謝する今日この頃の私です。フィリピン社会の高齢者に対する温かい心遣いと受け入れがあるからこそ、私もミッションを続け、共に楽しく生活できるのです。

*イタリア ローマ

聖マリア修道女会 荒井祥恵

今私たちは、東チモールでミッションを始め

ようとしています。もう少し色々なことが具体的にはっきり見えてきたら、お願いに上がります。宜しく願い致します。どうぞ、お元気で！

*メキシコ チアパス

ベリス・メルセス宣教修道女会 真神シゲ

きずなクリスマス号、2月26日受け取りました。カトリック生活、心のともしび 昨日、読みふけりました。ありがとうございます。

3月2日、ソヤ上げての大きなお祝いがあった、忙しい一週間でした。コロナウイルスは、どうなっていますか？皆様ご無事でしょうか、心配しています。

*シエラレオネ ルンサ

御聖体の宣教クララ修道会 白幡和子

とうとうシエラレオネにもコロナウイルスが入ってきました。そのため4月5日から3日間、外出禁止令が出ましたが、それだけでいいのかしらと心配です。コロナウイルスがあるかどうかどうやって調べるのでしょうか。それでも病院にはほとんど人は行きません。恐れているからです。マイル91のクリニックでも患者さんの数は大分減ったそうです。全ては私達の善のために神様がお許しになることを信じて、信頼して生きるしかありませんね。

いろいろ有難うございます。お祈りのうちに。

*ハイチ

レデンプトリスチン修道会 飯村美紀子

150号を迎える「きずな」おめでとうございます。皆様方のご奉仕に改めて心より感謝しております。日本を離れての外国生活は今年で44年目を迎えました。当初は3、4年程度でしょうなどと思っておりましたが、すっかりと根が生えてしまったようです。!!

毎号お送りくださいます「きずな」は楽しみでもあり、また力づけられてもおります。

世界を脅かしておりますコロナウイルスの勢いは、今まで無事で、患者の出ておりませんハイチにも接近しており、5日前にお隣りのドミニカ共和国（地続き）に患者が出たとのニュースが入りまして、医療設備等の殆どない状態のハイチでは、心配の渦が広がっております。ハイチの為にどうぞお祈り下さいますように。

今後も「きずな」を担当なさる皆様の上に、御慈しみの主よりのより豊かなお恵みを感謝と共に祈らせて頂きます。

良い四旬節をお過ごしになられますように。



▼ささやかですが、四旬節の分かち合いです。コロナウイルスの一日も早い収束することを祈っています。（東京都多摩市 北村妙子）

▼エンボウチデ、ショウガイヲモツムスメガイルタメ、オテツダイデキマセン、スコシノキンガクデスガ、キョウリョクヲサセテイタダキマス。イツモキズナヲヨンデ ハゲマサレテオリマス。（栃木県那須塩原市 有田美江）

▼主の平安 宣教される皆様の安全とご健康を心からお祈りいたします。キリストのみ言葉が多くの人に伝えられますように。

（北海道室蘭市 松岡健一・博子）

▼アジア・アフリカの飢餓の人々のために。

（東京都西東京市 井上景子）

▼「きずな」をお送りいただきまして、ありがとうございます。シスター方のご活躍に感謝し、感動をいただいております。思ってもみなかっ

おとりつぎをいただき、小さな祈りが届きます
ように。 (東京都中野区 青山日出子)

帰国した宣教者の近況

れてしまい止む無く、2019年5月に無念の決断をして帰国いたしました。滞在期間は12年に及びました。この間、ボリビアでの私のプロジェクトのために「日本カトリック海外宣教者を支援する会」の貴会から毎年、教材費等の援助金の支援をいただき助けていただきましたことを深く感謝いたします。帰国してすぐに、貴会を訪問し、直接お会いしてご報告とお礼の言葉をお伝えしたいと考えていましたが、2度の入院を繰り返しているうちに、コロナウィルス感染予防のため外出が困難になってしまいました。このようなことで、帰国のご挨拶が1年近くも経過してしまいましたことをどうぞ、おゆるください。また、そのうちに機会を作り、是非、貴会をお尋ねしたいと思っています。それでは、最後に再度、長期にわたるご支援に対してあらためてお礼と深い感謝を申し上げます。ありがとうございました。貴会の益々のご活躍をお祈りいたします。



みなさん、お変わりなく献身的な使命にお励みのことと
思います。

私は、昨年5月に宣教地ボリビアを後にして帰国いたしました。はじめは異文化体験の名目で2007年4月に日本を離れましたが、途中宣教女に切り替えるため、日本管区長上の配慮によりローマで開かれた宣教女コロソに参加することができました。その後は迷うことなく宣教女として自覚を持ち邁進して参りました。具体的には日本で取得した家庭科技術教諭の資格を武器に、恵まれない少女たちを性的快楽から救うために、生活費を稼ぐ手段を教え、取得させ、将来的には共同作業所を立ち上げて安定的な生活の基盤を作るためのプロジェクトを模索していました。目標達成のためにあと2年という目途が見えてきたときに、健康上の不調に見舞わ

今、わたしたちがなすべきこと

1. 神に祈る
2. 人間の偉大さと弱さを知り、神に信頼する
3. 信仰生活を見つめなおす。
4. 感染予防の努力を怠らない。

2020 年復活祭 フランシスコ会瀬田修道院 司牧担当司祭

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

いつくしみ深い神よ、
新型コロナウイルスの感染拡大によって、
今、大きな困難の中にある

世界を顧みてください。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、
感染の終息にむけて取り組むすべての人、
医療従事者、病者に寄り添う人の
健康がまもられますように。

亡くなった人が永遠のみ国に
迎え入れられ、
尽きることのない安らぎに
満たされますように。

不安と混乱に直面しているすべての人に、
支援の手が差し伸べられますように。

希望の源である神よ、
わたしたちが感染拡大を
防ぐための犠牲を惜しまず、
世界のすべての人と助け合って、
この危機を乗り越えることが
できるようお導きください。
私たちの主イエス・キリストによって、
アーメン。

希望と慰めのよりどころである聖マリア、
苦難のうちにあるわたしたちのために
お祈りください。

2020年4月3日

日本カトリック司教協議会認可

事務局からのお知らせ

今現在 covid-19 新型コロナウイルスのために苦しんでいる方、すでに亡くなられた方々には心からお祈りをおさげいたします。そしてこのワクチンの無い病に人間は本当になすすべを知りませんでした。社会のすべてが止まっているかのように見えて、陰では医療関係者をはじめとして多くの人々が休みなく働いておられることに感謝する方法が見当たりません。本当にありがたいことと思いながら、自粛によって事務関係全般もお休みせざるを得ませんでした。2019年度の決算報告書などを本来であれば6月号に掲載するところではありますが、残念ながら今回は見送り9月号に掲載できればと思います。本年もすでに半分過ぎようとしています。どうか皆様も人々との心の繋がりを切ることなく耐えて生き抜いていくことができますように。

2020年5月8日

日本カトリック海外宣教者を支援する会

新入会員 (敬称略)

個人会員 7名

近藤 ノリコ (群馬県桐生市) 三浦 文子 (東京都狛江市) 氏家 豊浩 (埼玉県南埼玉郡)
小林 ひとみ (大阪府池田市) 近藤 優也 (群馬県桐生市) 立石 広海 (沖縄県宮古島市)
津上 幸子 (神奈川県藤沢市)

事務局より

§ きずな 3 月の運営委員会はようやく開催されたもののその後の歩みはコロナのために止まってしまいました。

§ 次回の運営委員会は 6 月 20 日の予定です、5 月いっぱい援助申請を受け付けておりますので宣教者の皆様よろしく願いいたします。

§ 会員の皆様へ、会費、寄付等の領収書発行は一律取りやめておりますが、ご希望の方はどうぞ事務局までお知らせください、発行させていただきます。

§ 事務所の夏休みなどは 7 月以降ホームページなどでお知らせする予定です。

編集後記

◇新型コロナウイルスは、昨年 12 月中国で感染が発表され、今年の 1 月から日本国内でも感染が確認されるようになった時点では、学校の休業や 8 割の外出自粛等々、多くの方々は想像もしていなかったと思います。それが瞬く間に 3 月 1 日からのミサの中止が決まり、様々な活動や業務が止まってしまいました。「きずな」も委員の方々のご協力により何とか発行することが出来ました。編集担当が交替した矢先の出来事でしたので、少々慌てましたが何とか頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。(い)

発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木 4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112
日本カトリック海外宣教者を支援する会

・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会